

5. 資料収集・整理作業

原典資料及び参考資料として使用する各資料については、以下のとおりそれぞれ入手し整理する。

5.1. 山地災害危険地区 GIS データ

データ化対象の山地災害危険地区 GIS データを発注者から入手し、表 5-1 に示す項目を確認する。不備がある場合は、担当官に確認する。

表 5-1 山地災害危険地区GISデータ確認事項

項目	内容
データファイル	データファイルが一式そろっているか
GIS 表示	GIS 上に表示した際に、正確な位置に表示されるか
箇所	対象箇所の山地災害危険地区が入力されているか
内容	必要な属性データが入力されているか

5.2. 山地災害危険地区の情報が記載された資料（帳簿）

データ化対象の山地災害危険地区の情報が記載された資料（帳簿）を発注者から入手し、森林管理署および森林管理局ごとに整理し、一覧表を作成する。また、リンク番号を製品仕様書に従い附番する。一覧表のイメージを表 5-2 に示す。

表 5-2 山地災害危険地区一覧表イメージ

	森林 管理 局名	森林 管理 局名 コード 2	森林 管理 署名	森林 管理 署コード 2	台帳 番号	箇所 番号	台帳番号識別子 1	台帳 番号 識別子 2	台帳 番号 識別子 3	通し番号 8 桁	リンク番号
例 1	東北	00200	秋田	01800	3	204-1	山腹崩壊			00000003	1S002000180000000003
例 2	東北	00200	青森	00300	3	202-1	崩壊土砂流出危険地区			00000003	1H002000030000000003

5.3. 山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）

データ化対象の山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）を発注者から入手し、山地災害危険地区の情報が記載された資料（帳簿）ごとに整理したうえで、表 5-3 に示す項目を確認する。不備がある場合は、担当官に確認する。

表 5-3 山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）確認事項

項目	内容
図面の有無	位置を特定するための図面および山地災害危険地区の範囲がわかる図面はあるか
記載内容	対象箇所が記載されているか 対象箇所の山地災害危険地区の範囲がすべて記載されているか
位置精度	背景図は位置が特定できるだけの精度があるか
画像の質	画像の歪みが大きくないか 解像度が粗くて読めないということがないか
凡例	凡例の内容が分かるか 凡例が画像に含まれていなかったり、文字が読めなかったりすることはないか

5.4. 令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）

発注者から入手し、作業に必要なデータフォーマットに変換する。

5.5. 国有林数値基本図データ

発注者から入手し、作業で使用する GIS 上に既定の測地系で地理院タイルと重畳し、正しい位置に表示できるか確認する。

5.6. 地理院タイル

作業で使用する GIS で表示するための設定を行う。